

令和6年度 一般選抜学力検査 問題

国語

〔注意〕

- (1) 「はじめ」の合図があるまでは、この問題冊子を開いてはいけません。
この「注意」をよく読んでください。
- (2) 国語の検査時間は50分です。
- (3) 問題は1ページから13ページまであります。
解答用紙は1枚で、この問題冊子の中にはさんであります。
- (4) 受検番号と氏名をこの表紙と解答用紙に必ず記入してください。
- (5) 答えはすべて解答用紙に記入してください。
- (6) 解答に字数制限がある場合は、記号や句読点も一字としてかぞえます。
- (7) 問題の内容についての質問には応じません。印刷のはっきりしないところがある場合には、静かに手をあげて係の先生に知らせてください。
- (8) 筆記用具などを落とした場合は、静かに手をあげて係の先生に知らせてください。

受検番号					
9	0	0			

氏名	
----	--

第1問 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

失敗を他人事ではなく自分事としてとらえる

まわりのひとたちの言動や世間の風潮に①付和雷同ひつごうどうじょうするひとたちが増えると、ますます、自分の頭で考えるときの産みの苦しみを避けて、失敗や事故が起きたときに責任転嫁てんかもしやすい「他人の頭で考える」という文化が定着していきます。

こうして、現代の日本には「自分の頭でちゃんと考えようとしないう」という傾向が強く見受けられるようになったわけです。

そして、この「自分の頭で考えない」という傾向が、福島第一原子力発電所で科学的根拠こんきょもなく非常用ディーゼル発電機などを地下一階に設置するなど、取り返しのつかない失敗を引き起こす原因になったのです。

裏を返せば、ちゃんと **A** ようになれば、大失敗する可能性を低くすることができるのです。

どうすれば、自分の頭でちゃんと考えて、大きな失敗をできるかぎり避けられるようになるのでしょうか。

答えは「失敗を『他人事』ではなく、『自分事』としてとらえること」だと私は考えます。

②失敗を自分事にする一番の方法は「自分が失敗すること」です。自分の頭でちゃんと考えない文化が蔓延まんえんしているからといって、失敗した責任を問われれば、もう他人事にしてはいられません。ましてや、福島第一原子力発電所の非常用ディーゼル発電機の話のように、あまりに被害ひがいが甚大だいで取り返しのつかないような失敗をしたときには言わずもがなです。

しかし、できることなら、そんな大失敗を起こしてしまう前に、失敗を自分事にして、自分の頭でちゃんと考えるように意識を改革することで、取り返しのつかない失敗が起こる可能性を下げたいものです。

自分自身で失敗しなくても、失敗を自分事としてとらえる方法など、果たしてあるのでしょうか。

私は「ある」と考えています。

その方法とは「誰だれかが失敗してひどい目にあつた体験談を③正しい知識とともに聞くこと」です。「ひとが失敗した話」というのは「ひとが成功した話」よりもずっと強烈きやうれつに聞き手の記憶きおくに残るものなのです。

B

東京大学の工学部はかつて実験中の事故が多かったため、私が教授として行っていた機械科の授業では安全教育の一環いっかんとして、過去

の失敗事例を話していました。実際にあった失敗情報を正確かつリアルに発信することは、未来に起こる失敗の可能性を低くするために役立つからです。

さすがに死者が出るような事故は滅多に起こりませんでした。また学者の卵でしかない学生たちが本格的な工学の実験をする際には、知識や経験の不足を原因とする事故が起こりやすいのもまた事実でした。

この工学部の実験で実際に起こった事故（失敗）の話がどれだけ「失敗を他人事ではなく自分事にする」ことに成功して、以後、学生たちは自分の頭で考えるようになり、同じ失敗をくり返さなくなったか、実例を紹介しましょう。

あまりに痛すぎる失敗話

当時の東京大学工学部の実験のなかに「アルミニウムを使った凝固実験」がありました。この実験では「フッ酸（フッ化水素酸）」が使用されるのですが、このフッ酸は、取り扱いにじゅうぶん気をつけなければならない危険物でした。

実験中、フッ酸が皮膚に直接触れると、外側を傷つけることなく、フッ酸は皮膚に浸透して、直接、骨を溶かします。

それほど恐ろしい劇薬なので、ある企業からのアドバイスに従って、学内で「アルミニウムを使った凝固実験」を行うときには、フッ酸が絶対に皮膚に触れないように、必ず薬品手袋を二枚重ねにすることになりました。

ところが、「フッ酸はとても危険だ！」という警告は、最初の年こそ意識され、取り扱いのルールも守られていましたが、学年が変わるうちに、学生から学生へと伝聞されていくなかで、徐々に危険物だという意識が薄れていきました。

「失敗を自分事にできず、どこか他人事のように思ってしまう、フッ酸の危険性を自分の頭でちゃんと考えない」という日本の文化の悪いところが出たわけです。④「フッ酸はとても危険だ！」という警告も他人事のような扱いとなり、いつの間にかフッ酸は素手で扱われるようになっていました。

学内で「アルミニウムを使った凝固実験」が始まり、企業から「決して素手では扱わないように」と警告されてから三年後、その事故（失敗）は起こりました。

「アルミニウムを使った凝固実験」で、ある学生が、フッ酸によってきれいにエッチングした結晶構造を観察しようとしたときでした。薬品手袋を二枚どころか一枚もつけずに素手で実験していた学生は、誤ってフッ酸を手の指の皮膚につけてしまったのです。フッ酸の危険性を自分事として認識せず、軽々しく扱ってしまったために、学生は激痛に苦しむこととなりました。

学生はすぐ、フッ酸で負傷したときの治療法に詳しい大学病院の医者に診てもらいました。医者は、治療法は二つしかないから、どちらかを選ぶようにと言いました。

一つは、フッ酸に触れた指を切り落とす。

もう一つは、指先の爪の間から注射針を刺して、カルシウムを患部に注入し続ける。

注射針とは言え、爪の間に針を刺すのは、ほとんど拷問の世界です。しかし、指を切り落とすよりはマシだと考えた学生はカルシウム注射の治療に耐え続けて、二カ月後、なんとか完治することができたのです。

この実際にあった失敗話を工学部の学生たちに語っているとき、大抵の学生は、まるで自分が爪の間に針を差し込まれてでもいるかのような苦悶の表情になります。痛い話というのは、それがたとえ自分の話ではなかったとしても、あたかも自分が体験したかのように強く記憶に残るのです。

そのため、この話を聞かせるようになってからは、フッ酸を軽々しく素手で扱うような学生は一人もいなくなりました。

もう一つ、学生たちに「失敗は他人事ではなく自分事だ」と思ってもらうため、私が学生に話している失敗談があります。

それは、私自身が起こした実験中の失敗で、危うく学生と私自身が死ぬところだったという実話です。

私が体験した実験中の大失敗

いまから四十数年前、私が東京大学工学部の助教授を務めていた頃の話です。

私は大学院の演習として、学生たちと一緒に、リン青銅を試料にして、金属の破壊の実験を行っていました。金属の破壊は専用の機械を使って行いました。その機械のまわりを数人の学生が囲み、私もすぐそばに立って、実験のようすを観察していました。

ここで私は大きな失敗を二つ犯しました。

一つ目の失敗は、実験方法を変えてしまったことです。

試料となる金属の破壊の性質を調べるとき、通常は試料を「引っ張る」方法で実験します。

C

、学生たちの理解をより促進できるので

はないかと考えて、私は「引っ張る」のとはあえて反対の「圧縮する」方法で実験しました。引っ張る実験を圧縮する実験に変えただけで恐ろしい事故が発生するなどとは想像すらしていませんでした。

もう一つの失敗は、試料の飛散防止のガードカバーを装着しないまま、実験を行ってしまったことでした。危険をとまなうことはわかっていたのですが、学生たちに試料のようすを観察させることが目的だったので、実験中の試料（リン青銅の金属）がよく見えるように、良かれと思って

したことでした。そのときの私は、まさか実験中に試料であるリン青銅が飛び出してくるなどとは夢にも思わなかったのです。

いずれにせよ、本当に愚かな判断だったと今では深く反省しています。

この私の二つの判断ミスが原因で、私と学生の一人は九死に一生を得るような危険な状況に陥ってしまったのです。

死亡事故になりかけた失敗

実験では、一〇〇トン試験機を使って、試料であるリン青銅を上から加重して圧縮していきました。

実験が始まり、圧縮による変形が大きくなるにつれて、試料からはなんとも不気味なきしむ音が発せられ始めました。その音を耳にして、私も学生たちも不安を感じていました。私のすぐ近くにいた学生が異常を察知して試験機から離れた場所へと避難した直後、^⑤事故が起こりました。

圧力に耐えきれず、リン青銅が破断したのです。試料には飛散防止のガードカバーを装着していなかったため、リン青銅は猛烈な勢いで圧縮機から飛び出し、避難した学生がついさっきまで立っていた場所を通過して壁にぶつかり、跳ね返って、私の左の耳をかすめるように飛んでから、実験室の床に落ちました。

あまりの恐怖で、しばらく、誰も動かせませんでした。私は、奇跡的に全員無事だったことに感謝しました。もし私の近くに立っていた学生が自分の判断で試験機から離れていなければ、彼は生死にかかわる大怪我を負うことになったでしょうし、もしリン青銅の破片が少しでもズレた方向に飛んでいたら、私も含めてその場にいた誰もが死んでいたかもしれないのです。

この実験を経験してから、私の研究室では、新たに入ってきた学生に対して、リン青銅の圧縮実験の事故の話も含めて、全ての失敗事例を話すようになりました。

(畑村洋太郎『やらかした時にどうするか』より)

問1 ぼう線部①の意味を次の中から選びなさい。

- ア 自分自身の意志が弱く、むやみに他人の考えに同調すること。
- イ 昔のことをよく研究し、その中に新しい価値や意義を見つけること。
- ウ 強い意志を持って、どんな苦労や困難にもくじけないこと。
- エ 恐れることなく、自分の目標に向かってひたすら前進すること。

問2 空らん A に入る言葉を八字で答えなさい。

問3 ぼう線部②とあるが、自分が失敗した際に、今後、ほかの人が自分と同じ失敗を繰り返さないようにするために、どうする必要があるか。

それを説明した次の文章の空らんに入る表現を、本文中から十五字以内でぬき出して答えなさい。

失敗を繰り返さないためには、実際にあった失敗情報を（ ）必要がある。

問4 ぼう線部③とあるが、「あまりに痛すぎる失敗話」の話の中で、正しい知識に当たる部分としてふさわしい一文を抜き出して最初と最後の五字を答えなさい。

問5 空らん B ・ C に入るのにふさわしい言葉をそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- ア しかし
- イ たとえば
- ウ そして
- エ また
- オ ところで

問6 ぼう線部④とあるが、それはなぜか。その理由を説明した次の文章の空らんA・Bに入る表現を、それぞれ次の条件にしたがって書きなさい。

(A) という意識が薄れていったうえに、(B) から。

A 条件1 四〇字以内で答えること。

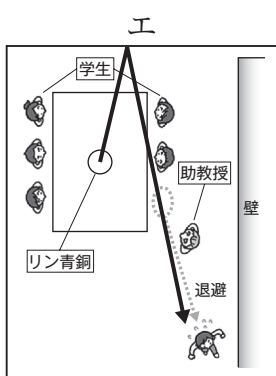
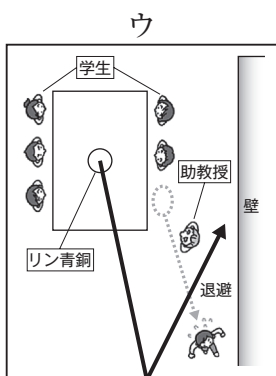
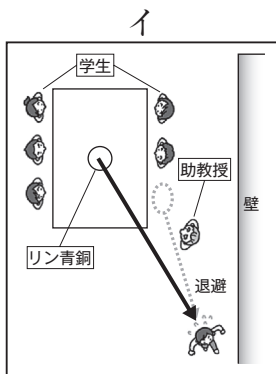
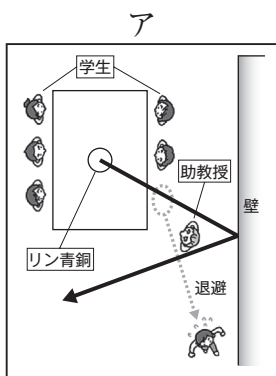
条件2 本文中の語句を用いて、どんな意識がどのように薄れていったのかを書くこと。

B 条件1 四〇字以内で答えること。

条件2 「実験が始まってから三年間、」で書き出し、警告が他人事になった理由を自分の言葉で書くこと。

問7 ぼう線部⑤とあるが、次の図は、実際に起こった事故の様子を表したものである。リン青銅が飛んだ様子を矢印で表したものととしてふさわ

しいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。



問8 次の文章は、本文に続く文章である。空らん（Ⅰ）（Ⅱ）に入る表現として、ふさわしい組み合わせを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

失敗を他人事化して（Ⅰ）と勝手に思い込み、自分事化できなければ、実験に細心の注意で臨むことを怠りがちです。フツ酸おこたによる負傷の恐ろしさや金属圧縮実験の危険性を伝える話など、過去の失敗の経験談は（Ⅱ）と想像させるので、あまりに怖こわすぎて、誰だれもがもう他人事ではすませなくなりませす。

実際に体験した失敗情報を正確に伝えることは、学生たちに「実験中の失敗」について、自分の頭でちゃんと考えさせる効果があるのです。

- ア Ⅰ 自分も失敗するかもしれない Ⅱ 自分だったらどうなっていたのだろうか……
- イ Ⅰ 自分には関係ないだろう Ⅱ 自分には関係ないけど大丈夫だろうか……
- ウ Ⅰ 他人も失敗するかもしれない Ⅱ 当時の人たちは大丈夫だったのだろうか……
- エ Ⅰ 自分は起こささないだろう Ⅱ もし自分がその立場に立っていたら……

第2問 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

初恋はつこいより早く、ヒーローのことを好きになった。

私が生まれて初めて胸を高鳴らせ、夢中になり、「男」を意識したのは、現実の男の子ではなく、漫画まんがの中のヒーローだった。

彼は、兄が集めていた少年漫画の主人公だった。①その感情に何という名前を付けていいのかわからないまま、必死に彼の進む物語を読み漁った。背中が大きくて、繊細せんさいな指で銃じゆうを扱う、大人の男の人だった。彼の発する言葉や、ちょっとした仕草の一つ一つを丹念たんねんに眺め、痺しびれるような気持ちになった。彼の身体が作る洋服の皺しわの形さえ好きだった。

学校の友達も皆、彼に夢中だった。私達は口々に、「格好いい」と彼を褒め称えた。自分の身体に灯った新しい感情を表すのに、子供だった私達はその言葉しか見つけられなかった。けれど、その②「格好いい」には、一人一人、違ちがった感情が込められていたと思う。

彼に真剣しんけんに恋をしていた女の子もいただろう。彼は冗談じようたんをよく言う人だったので、楽しい友達ができたような気持ちでいた子もいたかもしれない。男の子になって彼と一緒に戦いくしよいたいと思っっている子もいたと思う。大人の男性である彼のことを、理想の兄あまに甘えるような口ぶりで話す子もいた。または、彼自身になって、その強靱きやうじんな肉体と精神を手に入れたいと願った子だったはずだ。

私達は子供で、まだそれぞれの抱いだく感情を上手に言語化できなかった。「格好いい!」「そうだよ、本当に格好いい。大好き!」「見て見て、この表情!格好いい!」と、その言葉を必死に繰り返しては、かろうじて彼への感情を表現しようとしていた。

私自身の、彼というヒーローへの感情はというと、強いて言えば、「憧れ」という言葉が一番近かったような気がする。はっきりとした信念をいつでも持っている彼を、尊敬していた。そして、彼に恥はじない自分になりたいと思っていた。

③彼というヒーローと「出会って」から、私は、悪趣味な冗談しゆみに笑ったり、悪口を言ったりすることに非常に敏感びんかんになった。また、そういった場面めんで声を出して注意することができない自分を恥はじるようになった。「彼なら、ここで自分を曲げない」と、私は何度も思った。いつも彼が見ている気がしていたし、彼の正義が私を裁さいていた。

そういう意味では、彼は怖い存在でもあった。彼は、私が「なりたくない自分」になりそうになった時に、警報を鳴らし、私を導いてくれる人だった。

少年漫画の中を生きる彼は、常に死と隣り合わせだ。彼が窮地きゆうちに陥ると、必死に彼の勝利を祈いのった。

それは、④ 恋よりも純粋な感情だったかもしれない。自分の人生とはまったく関係のない世界の戦いについて、只、ひたすらに、「ヒーロー」の勝利を祈り続けていたのだから。

祈ることが、彼と一緒に戦う、唯一の手段だった。それは清潔な宗教のようでもあった。彼がなんとか勝利をおさめると、自分の祈りが空に届いたように思えて涙した。兄などは、「主人公だから、死ぬわけじゃないじゃん」などと言って涙もろい私をからかったが、そういう問題ではなかった。祈るのをやめたら、すぐにでも彼が死んでしまうような気がしていたのだ。

こうして文字にすると、A のような感情だと思う。けれど、彼を真剣に想うことで、どれほどのことを教わっただろう、と感謝もする。彼は私の大切な人生の先輩だった。

ヒーローに対して異様なほど純粋な想いを持ち、夢中になるのは、何も少女だけの特権ではない。それどころか、大人になればなるほど、より純粋に「ヒーロー」を愛しているのではないか、と思うことがある。

私の周りにも、心に大切なヒーローへの想いを抱いている大人の女性が沢山いる。海外ドラマの俳優だったり、スポーツ選手だったり、映画や本の中の人だったり。驚くべき純粋さで、自分の大切な「ヒーロー」の話をする彼女たちは、「彼がいるから生きていける」とすら言う。ヒーローを思うことが、自分が生きていく原動力になっているのだ。

私にも同じように、大人になった今でも、大切に想いを捧げているヒーローがいる。そういえば、恋をしない時期はあっても、私の中からヒーローが消えた季節はなかったように思う。物語の中でも現実世界でも、私は様々な場所で自分の「ヒーロー」と出会い、夢中になった。それは、私自身がヒーローを探しながら生きていくからかもしれない。

なぜ、自分はヒーローを探さずにはいられないのか。その理由を、大人になった今、少しだけわかるようになった気がする。

私たちの人生は彼らが生きる映画や本の世界のようにドラマチックではない。それでも、誰もが、戦わなくてははいけない。毎日、小さな戦いを繰り返すことで、明日という時間を手に入れていく。

子供の頃からそうだったのだろうが、大人になってますます、自分が「戦って進んでいる」感覚が強まっていった。少女のように、大人に守られた安全な世界で眠るわけにはいかない。望む望まないにかかわらず、自分自身が「⑤ ヒーロー」にならなければいけなくなってしまったのだ。

時には命懸けの戦いをしている彼らと私たちの戦いは、もちろん同じではない。けれど、日々起こるささやかな戦いを乗り越えながら、かろうじて前へ進んでいる時、ふと気が付くのだ。⑥ 憧れの「ヒーロー」が持っているのととてもよく似た魂の欠片が、自分の身体の一部に宿っている、と

いうことに。

少女の頃、「格好いい！」と手に汗を握りながら叫んだあの時、「ヒーロー」が持っていた、信念、勇気、強靭さ。そういうものが、今度は自分の身体の中から発見されるのだ。私はヒーローを愛し続けるうちに、いつの間にか、彼らを撰取していたのだということに気が付く。彼らを見つめ、その言葉を反芻し、彼らの強さを信じ続けることで、いつの間にか彼らを自分の身体の中に撰り込んでいたのだ。

私がヒーローをいつも探しているのは、私自身がヒーローとなって進んでいくために、彼らが必要だからかもしれない。⑦ 彼らを撰取することで、私は本当の私の形になることができるのだから。

だから、私は今もヒーローを愛し続ける。彼らに憧れ、彼らの勝利を祈り、そして彼らを全身で吸収しながら、今日も自分の世界を生き抜いていくのだ。

（村田沙耶香『となりの脳世界』より）

問1 傍線部①とあるが、なぜ当時の筆者は、「その感情」に名前をつけられなかったのか。これを説明したものとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「その感情」は、それまで感じたことがないので、その正体が分からなかったため。
- イ 「その感情」を素直に言葉にすることになんとも言えない恥ずかしさを感じたため。
- ウ 「その感情」を正確に表現する言葉を、幼い筆者はまだ学校で学んでいなかったため。
- エ 「その感情」に特定の名前をつけることがよいことがどうか、判断できなかったため。

問2 傍線部②とあるが、筆者の場合どのような感情が込められていたか。これについて説明した次の文の空らんにあてはまる表現を本文から十九字でぬき出しなさい。

筆者の「格好いい」に込められた感情は、彼が（ ） ことに対する、あこがれの感情である。

問3 傍線部③とあるが、「出会って」がカギ括弧かっこにくくられていることにはどのような狙いねらがあるか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 彼というヒーローとの出会いが、自分の生き方を大きく変えたことを強調する狙い。

イ その出会いが、一般的な出会いとは違う意味合いをもつことを強調する狙い。

ウ 自分が出会ったヒーローが通常のヒーローとは違う存在であることを強調する狙い。

エ ヒーローに限らず、人の人生における出会いという偶然の力を強調する狙い。

問4 傍線部④とあるが、ここでいう「純粹」とはどのようなことを意味するか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分の利害を考えない。

イ ひたすらに悪をにくむ。

ウ 子どもらしいわがままさ。

エ 非常に激しい一面をもつ。

問5 空らん A に入る語句として、ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 病気 イ 正義 ウ 後悔 エ 希望

問6 傍線部⑤とあるが、ここでいう「ヒーロー」とはどのような人を指しているか。これについて説明した次の文の空らんにあてはまる表現を本文から八字でぬき出して答えなさい。

ここでいうヒーローとは、人生の様々な困難に対して（ ）人のことを指している。

問7 傍線部⑥とあるが、これは具体的にはどのようなものか。本文から九字でぬき出して答えなさい。

問8 傍線部⑦とあるが、これはどのような意味か。説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ヒーローたちの影響を受けて自分の心を強いものにし、それによってなりたいたい自分に近づく。
- イ ヒーローたちの活やくを思い出して幸せな気持ちになり、いやなことを忘れることができる。
- ウ ヒーローたちの強さにあこがれてそれをまねるように努力し、無敵のヒーローになること目指す。
- エ ヒーローたちの考え方をひとつひとつ理解して、本当の正義を社会で実現できる方法を考える。

問9 次の文の空らんA Bを埋めて、あなたにとってのヒーローを説明してください。なお、Bは二十字以上三十字以内で具体的に書きなさい。

私にとって一番のヒーローは（ A ）であり、このヒーローの影響で私は（ B ）になった。

第3問 次の各問いに答えなさい。

問1 つぎのぼう線部の漢字の読みがなを書きなさい。

- ① かたきを討つ。 ② 山の頂に立つ。

問2 つぎのぼう線部のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① ウチユウに旅立つ。 ② 税金をオサめる。

問3 ①②の二文字熟語について、上と下の文字の意味の関係を表したものととしてふさわしいものを次から選んで記号で答えなさい。

- ① 幼虫 ② 善悪

ア 反対や対になる漢字

イ 同じ意味の言葉

ウ 上の字が下の字を詳しく説明する

エ 下から上に読むと意味が分かる

